

# e-dream-s 通信

No.54 発行：2005年3月13日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

## 目次

1. わがまま正直 辻荘一 p.2
2. マンハッタン日記：春までもう少し 井川好二 p.4
3. Tokku がやってきた 中川房代 p.11



東御苑梅林坂の紅梅 (2005年2月 撮影：塚本美紀)

## わがまま正直

代表理事  
辻莊一

私は正直者である。むろん大した正直者ではないが、生まれてから一度も嘘をついたことがない、などという嘘が言えない程度には正直者である。あるいは、お世辞も言うことはあるが、お世辞が嘘にならないように気を使い、お世辞がお世辞だと常に意識している程度には正直者だ。なにしろ社会人なので、正直にも時と場合があるということはわかっている。しかしとりあえず、私は正直者である。

しかも私はわがままな人間である。わがままにも色々あるが、どこに一番わがままかと言うと、面白くないことができないところが一番わがままである。仕事も面白くない仕事はやりたくないのである。仕事は仕事だから面白かろうが、なかろうが気にせずによればいいのであるが、そこはそれ正直者なので、面白くない時は面白くないと正直に認めてしまうのである。認めてしまうと、これがわがままな人間なので面白くない仕事はできないのである。

しかし世の中には、面白くないがやらなくてはならないことも多い。例えば、皿洗いなどはそのタイプの仕事の典型だが、とりあえずその時は音楽でも聞いて、音楽を聴いていたら手持ち無沙汰でつい皿洗いをしてしまっていることにする。仕事でも一人でやるルーティンの書類仕事などはこの「ついやってしまった作戦」が可能だが、そうもいかない時もある。そういう時は、面白くしてしまうことにする。いくつかパターンがあるが、仕事のやり方や手順を変えて効率化を図るのが一つの典型だ。どうやったらもっとうまくいくか考えるのは楽しい。結果がいいとさらに楽しい。計画通りいかなくて逆にひどく苦労することもあるが、つまらない仕事をするよりずっとましである。

相手がある場合は、受けるかどうか、その仕事が面白いかどうかの大きな分岐点だ。だから受けるように工夫する。本職が英語教師なので、例えば Grammar などは同じことを何回教えたかわからない。長年のキャリアでどこをどう説明すれば分かりやすいか、隅々まで承知している。だからただ肅々と教えれば良さそうなものだが、それだけでは気が済まない。退屈なのである。だから、そんなことをしなければ不必要な時間と労力をかけて授業のやり方を変えたり、冗談を挟んだりしてしまう。その結果うまくいくこともあるが、逆に分かりにくくなったり、冗談が滑って教室中に寒風が吹きすさぶこともあるが、ナニ、それでも分かりやすい授業を肅々とやるよりずっとマシなのである。生徒諸君、申し訳ない。なにしろ正直者でしかもわがままな人間なので勘弁してください。

でもね、やっぱり仕事や生活はそうも行かないですよ、面白くなくてもよけいな手間かけないでさっさと終わらせた方がいいに決まっていますよ、という向きもありましょう。仕事が面白いとか面白くないとか考えず、ルーティンをキッチリやっていただけの方がいるからこそ、世の中が回っているとも言えますね。

それでは仕事ではなく、NPO のようなボランティア活動はどうかと言うと、これはどなたも正直パワー、わがままパワー全開でいいのである。金も儲からず、誰に頼まれた訳でも

ないのに悲壮な決意で辛さに耐えてやるなんてバカバカしい。好きなことを好きなようにやればいい。相手に受けたかどうか（どれだけ社会貢献できたか）だけをバロメータに、自分にとって好きで面白いことを、やる。これが一番。

じゃ、ECAP 2005 は？これは面白くて受けること保証付きであります。わがままで正直な人、わがまま正直をやってみたい人、ぜひ参加しましょう。

# マンハッタン日記： 春までもう少し

井川 好二

3/09/05 (火曜日)

私の母と同じ年の三島由紀夫<sup>1</sup>は、生きていれば今年80歳。1950年代の終わり、NYCに来てブロードウェイのミュージカルを見たり、ボディビル・ジムに通ったり、コロンビア大の日本文学研究者ドナルド・キーン<sup>2</sup>に紹介されたりした。戦争が終わってまだ10年あまり。今から半世紀前の話。

三島の偉いところは、あるいは、そこがかれの芝居上手なところと云っても良いのだが、長逗留のこの地で、一言半句も、言葉の不自由さを云わないことで、明治の文豪、夏目漱石<sup>3</sup>の、英國での堪え性のなさ、あるいは真面目さとは対照的である。しかし、ニューヨーク英語は、三島の言葉の天稟を持ってしても、かなり難しかっただろうと、思わざるを得

---

<sup>1</sup> 三島由紀夫【みしまゆきお】1925.1.14 - 70.11.25 小説家・劇作家。本名平岡公威きみだけ。東京生れ。東大卒。学習院中等科在学中の1941年、「花ざかりの森」を「文芸文化」に発表。戦後、49年「仮面の告白」で文壇的地位を確立し、「潮騒」(54)、「金閣寺」(56)など、古典主義的な美意識に支えられた作品を発表。「鹿鳴館」(57)、「サド侯爵夫人」(65)などの戯曲の評価も高い。65年から「豊饒の海」の連載を開始(70)。67年自衛隊に体験入隊、68年楯の会を結成、70年11月楯の会のメンバー3名と自衛隊市ヶ谷駐屯地に到り割腹自決した。〔全集・36巻・1973-76〕〔岩波日本史辞典〕

<sup>2</sup> キーン Donald Keene (1922 - ) アメリカの日本学研究者。ニューヨーク州出身。コロンビア大学名誉教授。コロンビア大学でフランス文学、東洋文学を専攻。『日本人の西洋発見』The Japanese Discovery of Europe (1952)をはじめ、『万葉集』から三島由紀夫に及ぶ翻訳・研究活動で、日本文学に対する国際的評価を高めた。『BUNRAKU』(1969)で国際出版文化大賞受賞。英文『日本文学史』全4巻(1976~84)を刊行。ほかに『日本との出会い』『日本の作家』(ともに1972)、『百代の過客 日記に見る日本人』(1984) 退職記念論文集『日本文化の潮流』(1997)、『明治天皇』(2001)など。海外における日本学研究者の第一人者。2002年(平成14)文化功労者。千葉宣一 (C)小学館

<sup>3</sup> なつめ そうせき【夏目漱石】英文学者・小説家。名は金之助。江戸牛込生れ。東大卒。五高教授。1900年(明治33)イギリスに留学、帰国後東大講師、のち朝日新聞社に入社。05年「吾輩は猫である」、次いで「倫敦塔」を出して文壇の地歩を確保。他に「坊つちゃん」「草枕」「虞美人草」「三四郎」「それから」「門」「彼岸過迄」「行人」「こゝろ」「道草」「明暗」など。(1867~1916)〔広辞苑第五版図版付き〕

ない。もちろん、三島は、友人の西欧語の天才、吉田健一<sup>4</sup>ではないのだし、英米を股にかけた明治の逸材、南方熊楠<sup>5</sup>でもないのである。

2005年3月。ニューヨークのホテルの一室で、これを書いている。そばでスチーム・ヒーティングのパイプが、カチカチと音をたて、窓の外では零下の朝があける。

Holden Caulfield<sup>6</sup> は、J.D. Salinger<sup>7</sup>の一人称小説 *The Catcher in the Rye*<sup>8</sup> 「ライ麦畑でつかまえて」の主人公。マンハッタン育ちだが、今はペンシルバニア州のボーディング・スクールで学ぶ高校生。と云って、学校生活に不適應なホールデンにとって、この学校は何校目かの高校である。そしてここも、冬休みを前にして、退学が決まっていた、昨日夜遅く、寄宿舎を飛び出して、アムトラックに乗り、マンハッタンへ帰って来た。しかし、このままストレートに、セントラルパークに面した自宅のマンションへ帰るわけにもいかず、放浪生活が始まる。

昨夜、ニュージャージーの Newark<sup>9</sup> 国際空港に着いてから Amtrak<sup>10</sup> に乗った時、どういうわけか、この Holden の旅をなぞるようだと思ふと、夜汽車の窓から見えない大都会へ思い馳せつつ、Manhattan のペン・ステーション<sup>11</sup> へ着いたのである。

今日は、Holden 流に、自分で「ニューヨークでのバケーション」と決めて、まず朝寝。久

---

<sup>4</sup> よしだ けんいち【吉田健一】評論家・小説家。東京生れ。茂の長男。ケンブリッジ大中退。表現の重要性を唱えて日本近代文学を批判。評論「ヨオロツパの世紀末」、小説「瓦礫の中」など。(1912~1977) [広辞苑第五版図版付き]

<sup>5</sup> みなかた くまぐす【南方熊楠】民俗学者・博物学者。和歌山県の人。南北アメリカに遊学、1892年(明治25)渡英、大英博物館東洋調査部員。粘菌ねんきんを研究し、諸外国語・民俗学・考古学に精通。著「南方閑話」「南方随筆」「十二支考」など。(1867~1941) [広辞苑第五版図版付き]

<sup>6</sup> Holden Caulfield / ホールデン・コールフィールド 《J. D. Salinger の小説 *The Catcher in the Rye* の主人公; 学校などの社会に適應しない多感な少年》.[リーダーズ+プラスV2]

<sup>7</sup> Salinger サリンジャー J(erome) D(avid) Salinger (1919 ) 《米国の小説家; *The Catcher in the Rye* (1951)》.[リーダーズ+プラスV2]

<sup>8</sup> *Catcher in the Rye* [The ~] 『ライ麦畑でつかまえて』 《J. D. Salinger の小説 (1951); 学校の寮を飛び出した 16 歳の少年 Holden Caulfield が、New York の町をさまよう 3 日間を主人公の一人称で語った作品; 少年の言動や彼の目に映った社会の `phoniness' が、友だちに話しているようなざっくりばらんな文体で語られる》.[リーダーズ+プラスV2]

<sup>9</sup> New Jersey 州北東部の市、27 万; New York 市の西郊外、アッパーニューヨーク湾が延びたニューアーク湾に臨む港町; 国際空港がある[リーダーズ+プラスV2]

<sup>10</sup> アムトラック 《米国全土に鉄道網をもつ National Railroad Passenger Corporation (全米鉄道旅客輸送公社) の通称; 政府助成金によって運営され、列車の運行は民営諸鉄道に委託する方式をとる; 1970 年設立》.[American Track][リーダーズ+プラスV2]

<sup>11</sup> n. ペンシルヴェニア駅 《New York 市 Manhattan の Eighth Avenue の 31st Street と 32nd Street の間の現在 Madison Square Garden のある場所に、1910 年から 63 年まであった巨大な駅舎; 現在では地下駅となり、Amtrak, New Jersey Transit, Long Island Railway の 3 つの会社の列車の発着駅となっている; 普通 略して `Penn Station' と呼ばれる》.[リーダー

しぶりに熟睡。海外生活は、やはりどこか緊張していて、知らぬ間に睡眠不足になっている。昼の 12 時に泊まっていた Hilton をチェックアウトしてから、ホテルの移動。ちなみに、この日、NYC は朝から猛吹雪。

いっその方が NYC らしいと思うのは、茹だるような夏の暑さでは、人々はまるでパリ人のように、NYC を離れて、コネチカットやメインへ行ってしまふからで、仕事を離れられずに人々がたくさん NYC にいる冬こそが、いっそ NYC らしいのである。

新しいホテルは、コロンバス・サークル<sup>12</sup>にある West Park Hotel。入り口とフロントは、小さいがそれなりのスタイルと格式が感じられて、ちょっと良い。しかし、デザイナーズホテルの一つだと云うけど、建物も古いし、設備もまあまあ。案内された三階の 306 号室は、ヒルトンと較べると、かなり狭い。

しかし、ここでマンハッタンでの 5 日間を過ごす。それで、今回はフロントで Safety Box を借り、パスポートやチケット、クレジットカードなどを預けることにした。日頃はそういうことはあまり気にしないのだが、今回は方針変更。結局は、自己責任。つまり、このホテルでは、そういうことに、気をつけた方が良くと云うメッセージがでている。

ホテルを変った理由の一つは、日本人観光客とは一緒にはいたくなかったこと。別に日本人が嫌いというわけではないが、この一人旅には、やや有害。日本語が聞こえてくると、何かをしようと思う気持ちが萎えてしまう。この日本人がひとりも泊まっていないプチホテルに変わって、気持ちがスツとするのは、やはりわがまま？雪は、窓の外、今もどんどん降り積もっている。

ランチは、ホテルの向かいにあるタイム・ワーナービルの 4 階にある有名寿司バー、Bar Masa。カウンターに座って、高いのは承知の上で、寿司盛り合わせ。むろん、ビールはサッポロ。日本人はほとんどいない。ここの寿司は素直に上手くて、トロなど抜群。隣にある本店 MASA へも、一度行ってみたいものだが、はじめから一人 4 万円と決まっているので、今回は遠慮。

しかし、この日本ブームは、一体、何なんだろう？グルメ本「ザガット・サーベイ<sup>13</sup>」の NYC トップ・レストラン 25 には、寿司屋が 4 軒も入っている。ちなみに、イタリアンは 3 軒、中華はなんと 0 軒。残りはフレンチ、New American(?), ステーキ、シーフードなど。

---

ズ+プラスV2]

<sup>12</sup>n. コロンブス サークル 《New York 市 Manhattan にある円形交差点の名; 1894 年に建てられた Christopher Columbus 像がある》[リーダーズ+プラスV2]

<sup>13</sup> ザガットサーベイ(Zagat Survey) [食生活] ニューヨークのザガット夫妻によって創刊された全米で最も信頼されているといわれるレストランガイド。大勢の食通たちによるアンケートをリサーチしてレストランの評価をする。いまでは世界各国に七万人以上の調査協力者をかかえ、全米はもちろんヨーロッパまでカバーする権威あるガイドブックとして成功している。一九九九(平成一一)年六月に東京版が発売となった。東京在住、在勤の二万五千人が料理、内装、サービスの三項目を計三点満点で評価している。[現代用語の基礎知識 2001 年版]

ちょっと、モテ過ぎ？

そう云えば、昨日 Denver から Newark へのフライトで隣り合わせたビジネスマン風の白人中年男性が、大きな手帳の革製表紙に、「委血肉」と云う文字を掘っていたのを見つけて、びっくり。「これってどう云う意味？」と聞いたら、Commit my blood and bones to ~ と云う返事。何に？と聞くと、何にでも、自分の血と骨をかけて、一生懸命やる、のだそうだ。

腕に同じ字の入れ墨をしているとのこと。「血・骨」と云う漢字が、「美しいだろ」と云われて、ぶっ倒れそうになったが、まあ、このアメリカにおける、あるいは、NYC における、日本ブームと云うか、アジア・ブームと云うか、これって一体何なんだろう？

一方、BarMasa での私。「寿司盛り合わせ」の後、止せばいいのに、好奇心、*Might have killed the cat*<sup>14</sup>で、メニューにある「焼そば」を味わってみたくなり、注文。麺は細縮れ麺で、白胡椒の強さがやや気になるが、上品な、どちらかと云うと、中華の味もする、美味しい焼そばで大満足。野菜は、ニラ、もやし、椎茸など。ビールによくあう。ごちそうさま。最後に、日本茶を白磁<sup>15</sup>の急須<sup>16</sup>から頂いて、まことに結構。当然ながら、お腹はいっぱい。

その後、その Time Warner ビルの中にある、CNN<sup>17</sup>のスタジオ見学。15ドルも払ったが、結構おもしろかった。CNN、ブラウン管の裏側。私以外にはニュージャージーから来た退職者で70代の男性が二人。ガイドは役者志望の若者 Jordan。CNN の歴史とか、スタッフのフロアとか、いろいろ見せてくれて、「結局、ビジュアルじゃないものは、CNN じゃ news にならないんだろう？」と歯に絹着せない質問もいろいろできて、15ドルの値打ちは充分あり。ただの酔っ払いの絡み？

終わって、そこら中にあるスタバで、Café Latte を買ってから、一旦、ホテルに引き上げ。何も予定がない今日、問題は、夕食。昼食に最高級寿司の BarMasa へなんか行ったため、ちょっとおさえようと云う気持ちも無きしもあらず。しかし、中途半端なところへ行って、また不満たらたらになるのも、と思いながら、ホテルのフロントで、「安うて美味しいイタリアンない？」と聞いたところ、そりゃもうと紹介されたのが、Terra。どこかで聞いたことのあるような名前。吹雪の NYC を、ホテルから3ブロックほど、飛ばされそうになりながら歩いて、発見。コマシな店。

---

<sup>14</sup> Curiosity killed the cat. 《諺》 好奇心もほどほどに。[リーダーズ英和辞典第2版]

<sup>15</sup> はくじ【白磁・白瓷】純白の磁器。カオリンを素地(きじ)とし、透明な高火度釉を施す。中国、六朝(りくちよう)時代に起り、日本では江戸時代に伊万里で焼成。[広辞苑第五版図版付き]

<sup>16</sup> きゅうす【急須】(もと中国で、酒の爛かんをした注ぎ口のある鍋) 葉茶を入れ、湯をさして煎じ出すのに用いる、小さな土瓶どびん。茶出し。きびしょ。[広辞苑第五版図版付き]

<sup>17</sup> シー エヌ エヌ【CNN】(Cable News Network) アメリカの国際的なニュース専門テレビ局。アトランタ市で1980年放送開始。[広辞苑第五版図版付き]

頼んだのは、アペタイザーに、チコリ<sup>18</sup>のパロマ産生ハム巻き。これは、イケル。パスタは、リコッタチーズ<sup>19</sup>風味の Papardelle 車エビ添え。ちなみに、パッパデリは、名古屋のキシメンのように太い麺。美味かった。エビとかは、結局のところ、どうでもいいのだが、パスタが美味いと、うれしくなる。メン食いである。

私についたウエイターは、若き日のポール・マッカートニー似の Baby face<sup>20</sup>ハンサムで、マンハッタンにはこう云う男たちも結構いるんだと、ちょっと、イタリアの俳優マルチェロ・マストロヤンニ<sup>21</sup>を思い出したり。ちょうど、おとといの晩、ユタ州のスキーリゾート、パーク・シティ最後の夜、早く寝ないと思っているのに、テレビでは、The Beatles の George Harrison<sup>22</sup>追悼コンサートをやっていて、これは、しかし見てしまった。エリック・クラプトン<sup>23</sup>、リンゴ・スター<sup>24</sup>、ビリー・プレストン<sup>25</sup>。ジョージの息子の姿もステージにあって、もちろん、この DVD を買うつもり・・・その中で、ピアノの前に座って、ひときわ老けて見えたのが、ポール・マッカートニー<sup>26</sup>。While My Guitar Gently Weeps などを、歌う。しかし、クラプトンに比べて、尋常でないあの老け方は、ファンとしては、ちょっと、酷。生き過ぎ？あるいは、Baby Face の宿命？

それはともかく、そのポール似のウエイターは、仕事ぶりも結構しっかりしていて、すこし感心。ネイティブではないアクセント。それで、もちろん、南イタリアの地名を聞くの

---

<sup>18</sup> チコリー【chicory】キク科の多年草。タンポポに似るが、花茎は1メートルに達する。ヨーロッパの原産。根株から出る芽を軟白栽培し、サラダなどにして生食。[広辞苑第五版図版付き]

<sup>19</sup> リコッタチーズ(ricotta cheese)[外来語年鑑 2003 年]カッテージチーズ状のイタリア産の非熟成ホエーチーズ。[現代用語の基礎知識 2003]

<sup>20</sup> a. 赤ん坊みたいな顔の、童顔の;[fig.] 幼く無垢な感じの。[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>21</sup> n. マストロヤンニ Marcello Mastroianni (1923/24 ) 《イタリアの映画俳優; La Dolce Vita (甘い生活, 1960), Divorzio all'Italiana / Divorce Italian Style (イタリア式離婚狂想曲, 1961), Lo Straniero / The Stranger (異邦人, 1967), Una Giornata Speciale / A Special Day (特別な一日, 1977), Oci Ciornie / Dark Eyes (黒い瞳, 1987)》[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>22</sup> George Harrison (1943 - 2003 ) 《英国のロックギタリスト・ヴォーカリスト; もと the Beatles のメンバー》[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>23</sup> クラプトン Eric Clapton (1945 ) 《英国のロックギタリスト・シンガーソングライター; 1960 年代前半は Yardbirds# のギタリストとして注目される; 60 年代後半の Cream# 時代に B. B. King# に影響されたブルースギタースタイルを完成させた; 70 年代に入るとヴォーカル主体のサウンドで `Layla# (1971) をヒットさせる; その後ソロシンガーとしても `I Shot the Sheriff# (1974), `Wonderful Tonight' (1978) など多くのヒット曲がある; ニックネームは `Slowhand#》[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>24</sup> Ringo Starr (1940 ) 《本名 Richard Starkey; 英国のロックミュージシャン; もと the Beatles のメンバー》.[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>25</sup> Billy Preston (1946 ) 《米国の黒人キーボード奏者・ソウルシンガー・ソングライター; Beatles の `Get Back# (1969) や `Let It Be# (1970) のレコーディングに参加して一躍有名になる; 1970 年代には演奏のみの `Outa Space' (1972) がグラミー賞最優秀ポップ演奏賞を受賞》.[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>26</sup> マッカートニー Sir (James) Paul McCartney (1942 ) 《英国のロックシンガー・ソングライター・ベースギタリスト; もと Beatles のメンバー》.[リーダーズ+プラスV 2]



を期待しつつ、“Where are you from?”

答えは、南米の Ecuador<sup>27</sup>。一瞬、その意外さにびっくり。聞いてみると、後の従業員は、メキシコ人。もちろん、オーナーやシェフはイタリア人。思えば、Latino<sup>28</sup>の就職事情も、なかなか大変なようである。メキシコ料理など単価は安いし、スペイン料理店は数少ないし、だから、ラテン系なら、イタリアンじゃないと、まともな仕事はないのだろう。一方、店には出前の注文が周りのホテルの客室やビルのオフィスからどんどん入り、プラスチック・バッグ<sup>29</sup>にいったホカホカのイタリアンを抱えて、凍った街へウェイターの出前が走る。ご苦労！もちろん、出前に行くには、しっかり着込んでからでない。

店にいる他の客は、マンハッタンにある他のコマシなレストランと同じように、アメリカ国内のお登りさんグループ数組。海外からの白人のグループ数組。後はこっちに住んでいる風のカップルたち。そのうち一組の若い白人女性が、フォークをずっと手にして話をしていたのには、いささかゲンナリ。

ちょっと気になった中年女性がいて、入り口近くのバー・カウンターに一人陣取って、カクテルをのみながら、バーテンダーやウェイターを相手に、ああでもないこうでもない、大声で話をする。これがまた ESL の英語教師のように、ずいぶん、はっきりして聞き取り易い発音。素人のアメリカ人には珍しい。そしてバカ笑い。昔、南米のどこかで英語を教えていたのかも知れない。

ラテン系で、ノンネイティブばかりの従業員と、しきりに話をしてから、そのバカ笑いの女性は、“I have other things to do...”とかなんとか云いながら、吹雪のマンハッタンへ、パイと消えていく。どんな other things なのか？彼女がでていってから、我がポール君に、「彼女は良く来るの？」と聞くと、「毎日ですよ」との返事。NYC は、人の孤独を感じる街。今夜は、特に、寒い。

NYC の住民の epithet<sup>30</sup>の一つは、“fly-by-night<sup>31</sup>”：「今晚中に夜逃げして、朝には跡形もなくなる」この街の「根無し草」性がよくでている。思い出すのは、トルーマン・カポーティ<sup>32</sup>の *Breakfast at Tiffany's*<sup>33</sup> の、ヒロイン Holiday Golightly。名前からして、風に巻かれて

---

<sup>27</sup> エクアドル【Ecuador スペイン】(赤道の意) 南アメリカ北西部、太平洋岸の赤道線上にある共和国。1822年独立。住民はインディオが多く、言語はスペイン語。面積 28万3千平方キロメートル。人口 1146万(1995)。首都キト。[広辞苑第五版図版付き]

<sup>28</sup> a (pl ~s) ラテンアメリカ先住民[居住民](の); 《米国在住の》ラテンアメリカ系人(の)[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>29</sup> a plastic bag ポリ袋, ビニール袋.[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>30</sup> a 《人・ものの特徴を表わす》形容語句, 形容辞, 異名《例 Richard the Lion Hearted》; あだ名, 通り名.[リーダーズ+プラスV 2]

<sup>31</sup> 借金して夜逃げする人, 無責任な[信頼できない]人, あてにできないもの[事業] [リーダーズ+プラスV 2]

<sup>32</sup> カポーティ【Truman Capote】アメリカの小説家。異常な感受性・幻想性が特徴。作「遠い声、遠い部屋」「ティファニーで朝食を」「冷血」など。(1924~1984) [広辞苑第五版図版付き]

飛んでいってしまいそうな名前。尤も、Holly は若くて、ボーイッシュな美人であるところが、この英語の先生とはやや違うのだが。しかし、彼女が明日からこの店へ来なくなっても、誰も不思議だとは思わないだろう。

ピアノ・バーから「群衆の中の孤独<sup>34</sup>」を歌う、ビリージョエル<sup>35</sup>の「Piano Man」が聞こえてきそうな夜である。

ワインをさんざん飲んで食い散らした後は、いつものように、ソルベ<sup>36</sup>とグラッパ<sup>37</sup>。2種類あるうちの、高い方を頼んだのだが、グラッパはまあまあ。ソルベは Super。一長一短だが、平均点としては、合格。チップを弾んで、表にでる。

NYC は、50 年代のカポータやサリンジャーや三島の時代から、ちっとも変わっていないのかも知れない。そして、それが良いので、この雪の降る中、はるばる極東の島からバケーションにやってくるのだろう。そうか、NYC はリサイクル社会か。

そう思えば、遙か南のインドのコルカタも、ロシアのウラジオストックも、50 年前、100 年前とほとんど変わってなくて、リサイクル社会。ひょっとすると、西欧文明って、もともとリサイクル社会？つまり、新しいものをつくるより、あるものを再利用することが、この文明の特徴の一つなのかも知れない。それにひきかえ、どんどん新しくして変わっていくのは日本だけ？

凍りそうな耳朶をかばいつつ、吹雪の夜の NYC を歩きながら、考えるには、ちょっと Heavy

---

<sup>33</sup> Breakfast at Tiffany's /n/ 『ティファニーで朝食を』 《Truman Capote の小説 (1958); 1940 年代 New York に住んでいた語り手が、当時同じアパートにいて奔放な暮らしをしていた変てこな娘 Holly Golightly のことを回想する; 1961 年に Blake Edwards 監督, Audrey Hepburn と George Peppard (1928-94) の主演で映画化された》.[リーダーズ+プラスV 2]  
<sup>34</sup> リースマン【David Riesman】アメリカの社会学者。伝統指向型・内面指向型・他人指向型という三つの社会的性格の分析で知られる。著「孤独な群衆」「個人主義の再検討」など。(1909~) [広辞苑第五版図版付き]

<sup>35</sup> n. ジョエル `Billy' Joel [William Martin Joel] (1949 ) 《米国のロックシンガー・ソングライター・ピアニスト; 1977 年に出したアルバム The Stranger# からシングル `Just the Way You Are'# (1978) が世界的にヒットして Grammy 賞を受賞; その後も 52nd Street# (1978), An Innocent Man (1983) などすぐれたアルバムを発表; 1980 年代を代表するシンガーソングライター; シングルヒット曲 `My Life'# (1978), `It's Still Rock and Roll to Me'# (1980), `Tell Her about It'# (1983), `Uptown Girl' (1983)》 [リーダーズ+プラスV 2]

<sup>36</sup> シャーベット【sherbet】果汁またはワインなどの酒類に甘味を加えてかきまぜながら凍らせた氷菓子。ソルベ。 [広辞苑第五版図版付き]

<sup>37</sup> グラッパ〔世界のローカルドリンク話題学〕ワインをつくるときに出るブドウの絞りかすを蒸留したイタリアの酒。ブランデーの一種だが比較的値段が安いことで知られ、きりっとしたドライな風味は良質の焼酎にも似る。無色透明が多いが、黄色味を帯びたものや褐色に近いものもある。アルコール度数は 37~60 度と高く、小さなグラスに注ぎ、食後にストレートで飲むことが多い。フランスにも同様の酒があり、「マール」とよばれている。 [現代用語の基礎知識 2003]

な話題かもしれない。しかし、深夜に、酔っぱらって歩いていても、冷えきって凍え死ぬかもしれないが、物理的な身の危険も感じず、ぶらぶらできるのはすばらしい。しばれるマンハッタンの夜だが、春までもう少し、かな。(Friday, March 11, 2005)

## Tokku がやってきた

中川房代

最近、テレビを付ければ、ライブドアの堀江社長、堀江社長、堀江社長。ニュースもニッポン放送株の話題ばかり。3月11日には、東京地裁からライブドア側の主張を認める司法判断が出されたが、ニッポン放送側が異議申し立てをしたため、まだまだこの問題は長引きそうだ。株取得や手法への賛否両論、堀江社長への好き嫌いも含めた賛否両論。詳しい内容はよくわからないが、こんなに毎日何度も報道されるのは、アメリカなどでは日常茶飯事の企業買収が、日本ではまだ珍しいということで注目を集めているという事情もあるらしい。

昨秋は、プロ野球の球団買収や新球団の設立。善し悪し、好き嫌いを別にしても、これらは今までの古い体質を打破する動きであり、堀江氏の行動が日本社会に話題を提供しているのは間違いないと思う。

3月7日、大阪市の都市経営諮問会議の解散問題。

この諮問会議は、外部の視点から市政運営を点検し、市長に改善点を提言してもらうために市長が設置した機関である。今回の突然の解散は、会議のメンバーに知らせずに行われたことなどが論議になっている。これも、今までの古い体質にメスを入れようとした試みをめぐっての問題である。因みに、座長の本間氏や後任候補で名前の拳がっている跡田氏は、NPOの分野でも著名な方々で、私も何度かお会いしている。

上の事件を見聞きすると、「規制緩和」という名の日本の「改革」が進んできているんだと感じる。その全てがよいことだとも、正しい政策だとも思わないし、また全てが悪だとは言えない。それぞれの評価はあるだろうが、今までの枠組みを壊す役割を果たしているのは間違いないと思う。

2002年12月に構造改革特区<sup>38</sup>制度が創設されてから、提案の全応募数は2,337件(2004年11月現在)、そのうち498件が認定(2004年12月現在)されている。教育の分野では「教育特区」。公立の学校で、中高一貫教育の学校、英語で授業をする学校、コミュニティ・

---

<sup>38</sup> 「経済財政諮問会議・構造改革特区」

<http://www.keizai-shimon.go.jp/explain/progress/special/>

スクール<sup>39</sup>、など、様々な学校が生まれてきている。特区認定により小学校でもカリキュラム化された英語活動が始まり、中学校の教員が小学校に行って授業をしているという話も聞いていたが、今まではまだ「ひとつごと」であった。

私の勤務する N 市でも、昨年 12 月に教育課程の弾力化の特区申請が認定された。その 1 つが小学校・中学校での「国際コミュニケーション科」<sup>40</sup>の設置である。この 4 月からは、まず小学校 5 年生・6 年生と中学校全学年で、週 1 時間（総合的な学習の時間を充てる）の「国際コミュニケーション科」の授業が開始、来年は小学校 3 年生と 4 年生が加わり、再来年には小学校・中学校の全学年で実施の計画である。

特区の実施に際しては、英語の native speaker である ALT (Assistant Language Teacher 英語指導助手) を、6 校（小学校 4 校 & 中学校 2 校）に一人配置。小学校では各校で一人の英語担当者（英語専科）を決め、外部から任用（雇用）する「小学校英語教育支援者」を 2 校に一人を配置。小学校での「国際コミュニケーション科」の授業は、学級担任 & 英語担当者（& 小学校英語教育支援者 & ALT）で授業を進めていくのだと、先日、教育委員会の説明会があった。

ちょうど今日、新聞に小学校での英語の必修化についての記事<sup>41</sup>が載っている。

「英語教育を必修化すべきか」の問いに、「そう思う」と答えた保護者が 70.7%、教員は 36.6%、「そう思わない」教員が 54.1%。韓国や中国などのアジア他国で小学校から英語教育が行われていること、早期に外国語を勉強することへの弊害、学力低下への懸念など様々な面での議論がある。勉強不足の私は、こうすべきだという考えを持つには至っていない。

これまで「特区」って面白いな、これで日本の教育がよくも悪くも変わっていくぞ、と思っていた私。しかし、いざ自分たちの身に降りかかってくると大変。4 月から実施だというのに、まだまだ分からないことだらけで、決めなければいけないことも山積。強力な市のトップダウンのやり方に、疑問や不安、不満の声もある。中学校の場合は、具体的にどう進めていくかは各職場や英語科にお任せ？ それでも、やるからには、4 月からどうしていくか、しっかり市全体や職場で話をしていかないと、と思っているこの頃。機会を見つけて、また経過をレポートしますね。

---

<sup>39</sup> 教職員人事や予算使途の決定、教育課程、教材選定やクラス編成の決定など、学校の管理運営について、学校の裁量権を拡大し、保護者や地域の意向が反映され、独自性が確保される様な新しいタイプの公立学校のことを「コミュニティ・スクール」と言います。

（「構造改革用語集」<http://www.keizai-shimon.go.jp/explain/term/01.html#ka-20> より）

<sup>40</sup> 詳しくは、<http://www.pref.osaka.jp/kikaku/tokku/shityouson-tokku.html> を参照

<sup>41</sup> <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050311-00000316-yom-soci>

### 編集後記

昨夜、もう退職して数年が経つ先生のお宅におじゃました。古い農家を買取ったという大きな梁のある立派な家で、土間には薪ストーブを置き、その奥には退職して始めたという陶芸の工房がある。昨夜は、その薪ストーブのまわりに懐かしい顔が集まった。テーブルの上には小鹿田焼の皿に混じって、その家の主の味わいのある皿が並んでいる。今でもさわやかさを失わないS先生は、シニアのテニスの大会で全国大会に出場することになったという。怖いながらもいつも生徒と若い教員を暖かい目で見守ってくれていたS先生は、農業と陶芸に明け暮れる日々とかで、自分で作った「ひのひかり」のおにぎりを持参しての参加である。もとは食品科の教員であったN先生は、賑やかに飲んだり食べたりしている我々の横で、もくもくと蕎麦をうち、プロ顔負けのおいしい蕎麦を食べさせてくれる。その当時の生徒の話にも花が咲き、その中の数名とは今でも交流があることが伺われる。S先生が、「一生懸命仕事してきたけど、そのお陰で今があるんやなあと思うよ。今が一番いい！」と晴れやかな顔でおっしゃった。先輩方のさわやかな生き方は、「今、しっかりがんばれよ。」という後輩へのメッセージのように感じた。(塚本美紀)